

館・園紹介 No 11

関ヶ原大爬虫類センター

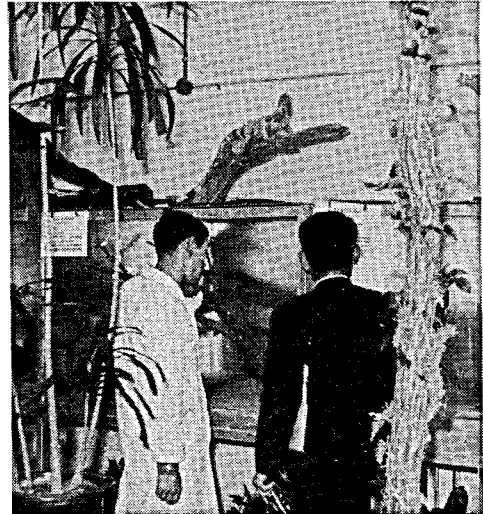
〒503-15 岐阜県不破郡関ヶ原町玉
TEL <05844>②-1100~2

見るほどに愛着が湧く！



(上) 関ヶ原大爬虫類センター正面入口。

(右) ガラスケースの中には、生きたほんもの外国産蛇類、その他の爬虫類が飼育展示されており、様々な色彩・形態を目の前に見つめることができ、ところどころに、はく製も展示されている。(第三展示室にて)



「爬虫類」ということばを耳にすると、たいていの人は「グロテスク」「恐ろしい」「気持ち悪い」「怖い」などということばが跳ね返ってくる。このたいていの人間から毛嫌いされている爬虫類を集めて、生きたまゝで見せようというのが、関ヶ原大爬虫類センターである。連日、多数の若者で賑わっている、伊吹山山麓関ヶ原国際スケートセンターでは、以前から、これら都会からの訪問者に、何か知的文化的レジャーを楽しんでもらう方策はないかと検討されてきた。全く新しい独創的なものというので、「採算が合わないからやめなさいよ」という上野動物園等の専門家筋の意見もふまえ、「儲からなくてもトントンでいいから、やろうじゃないか」ということから出発、去年の10月にオープンしたものである。戦時中の弾薬庫をそっくり利用して、三つの展示室が作られている。訪れたのは、年の暮れの雪がチラホラ舞いおきる頃であったが、入口を入ると、24時間暖房の各部屋は、すっかり冬を忘れさせてくれた。第1展示室へ入ると、いるわいるわ、日本産のものが集められ、大きなガラス張りのケースの中に、木株にまるかりついたシマヘビが、百匹は越えるだろう。思わず「ウァー」とあとずさりしてしまいそうな異様な雰囲気包まれた。アオダイショウも数えきれないほど、ヤマカガシもしかり。マムシもたくさん飼われているし、朝鮮産のものと、生きたまゝで比較するこ

ともできる。鉛筆ほどのシマヘビの子どもが姿を見せることもある。体色の個体変異も見られる。第2, 3展示室へ移ると、色彩美に富んだ小型のヘビ、トガケ類、それに甲に美しい星模様をつけたホシガメがいるかと思うと、ニジキヘビがどっかりとぐるを巻いている。地球上に棲息する生物の、実に変化に富んだ多様性に、あらためて驚異の目をむくばかりでなく、いつの間にか、平常抱いていたヘビへの恐怖心も嫌悪感も薄らいで「ヘビって、よく見ると、思っていたより愛くるしい動物なんだぁー」という気持ちになってしまうから不思議なものである。こういうところに、実際に接しなくてはならない自然学習の本質があるのだし、動物園の存在価値もあるのだろう。ヘビ嫌いの人にこそ、ぜひ一度お出かけ下さいとお勧めしたい。

それにしても、生き物を扱う施設にとっては、訪れるわたしたちには思いも寄らない苦心と努力がある。毒ヘビ対策としての、毎朝の匹数チェック、近くの病院への各種血清の保存依頼、防壁の工夫、展示ケースのこと。爬虫類に通じ、ヘビに愛着を持って飼育に当られる協力者、日本蛇族研究所・上田敏氏や吉田庄一氏などが居られるからこそでもある。ただ一通り、急ぎ足で見て通るだけでなく、どんな素朴な質問でもどンドン飼育係として室内に居られる方に投げかけるべきである。長年野山を駆けめぐり、実際にヘビなどの生態を見つめ接してこられた方だけに、実に具体的、しかもわかりやすく、高度な説明が聞かせてもらえるのです。

動植物園関係の施設の、まことに貧弱な県下の実態を思うとき、今後のより内容の充実を期待し、爬虫類に関する学問的な研究センターとしての性格をもった方向に進まれることも希望したい。ただ見せ物、物珍らしい施設に終わることなく、将来は地の利を生かして、周辺一帯に、自然を対象とした文化的レジャー施設を増設していける計画もあるということです。各種学校団体の、遠足、社会見学、あるいは科学教育の延長としての利用はもちろんのこと、地域諸団体、婦人会、青年団、あるいはグループ旅行、家族旅行等、巾広い人々の見学・利用をおすすめしたい。(写真・文、小野木)

「岐阜県博物館」の建設に協力を

岐阜県博物館協会長 上 松 陽 助

この度、岐阜県の置県百年記念事業のひとつとして、「岐阜県博物館」が建設されますことは、岐阜県文化の発展のため、まことによろこばしいところであります。

岐阜県博物館協会としまして、前々から県立の博物館建設を県当局へお願い申しておりました。また、各種具体的問題についても要望してまいりました。

県当局では、わたしたち協会の要望を、おおいにとり入れていただいております、また当協会の活動についても、深いご理解とご援助をいただいております、感謝にたえません。

今年の秋、本県において開催されます「東海博物館協議会総会」についても、県当局のご協力を得なければなりません、たぶんこの会では、「岐阜県立博物館」の建設計画等についても、論議されるべき研究課題になろうかと考えられます。

構想案にももりこまれていますように、今後

岐阜県博物館は、県下の中央博物館として、関係諸機関ならびに、90近い県下の博物館的諸施設と密接な協力連絡を持って、本県文化の発展のため活躍されることになっていきます。



当協会としましては、岐阜県博物館の協力をえて、県下の博物館的施設の発展を願うことが先立つわけですが、お互いに微力を出し合い、他県にひけをとらない、立派な岐阜県博物館をスタートさせるべく、全会員、全施設一致してご協力申したいと思います。

終りに際し、県当局より本協会への昭和47年度に対するご援助がたまわれたことを、会員の皆さまに報告し、お礼にかえます。今後とも引き続き、よろしく願いいたします。(おわり)

“大いなる死滅の歴史に学びましょう”

関ヶ原大爬虫類センター社長 朝居俊雄

爬虫類は、およそ三億年も前から存在しているが、この数十年のあいだに爬虫類に対する興味と研究は、大変に進んできました。

かつて爬虫類は、地球上のあらゆる地面に生棲し、一億数千年の長いあいだ、地球上をわがもの顔に支配していました。プロントザウルス、プテラノドンなど、多数の恐竜の世界がその例でした。その爬虫類の大群から、今日までわずかに生残ったものは、やせほそり、あの恐竜黄金時代を想像させるにはあまりにも小型化した、カメ、ヘビ、ワニ、それにムカシトカゲなどで、これらはまさに、生ける化石といえるものです。

ところで、巨大な爬虫類の興亡は、私たちにとっては、大きな教訓であるはずで、私たち人間は、今日栄えているとはいえ、核戦争の脅威、著しく増加する人口と食糧問題、天然資源の濫用と自然の破壊、そして各種公害問題と、将来についての、正しい見通しを持たなかった

ならば、人類がわずかな数に減ってしまい、果ては滅亡しないと、だれが保証できるでしょうか。爬虫類の歴史そのものこそが、そのことを明らかに物語っているのではないのでしょうか。

この大自然の摂理ある調和の姿を観察し、人間のあり方を考える足場にもなればと、遠くは南アフリカ、アマゾン、東南アジアのジャングルや河川から、多数のヘビや爬虫類・珍獣を集めて来ました。こうした生物の姿に接してみますと、想像以上に次々と、生命あることへの興味が高まるとともに、何億年も前に栄えた彼らに対する感傷がこんこんと湧き出てきます。

滅び行くであろう生物に、保護の手を差しおべてやれるたったひとつの生物、それは私たち人間なのです。爬虫類たちに少しでも哀れみと愛着を持ち、現代の人間生活そのものについても、深く反省するきっかけとなるような、そんな爬虫類センターにと、願っているのです。

爬虫類に関する私的研究について

関ヶ原大爬虫類センター顧問、東海小動物研究所々長 上田敏

私は数年前から、日本をはじめ東南アジア各国の爬虫類の分類、生態、病理を研究しながら、最も長い歴史を持ちつつ滅びゆく爬虫類を、何とか保護し繁殖させることはできないかを考えてきました。

そこで、(財)日本蛇族学術研究所(毬山理事)のご尽力と、東京大学医科学研究所熱帯疫学研究室(沢井博士)の指導下において、世界蛇族の学術的研究をするために、米国海軍第二医学研究所獣医系実験動物研究室に、二年にわたり留学しました。この研究所は、実験動物に関する研究が盛んで、世界的に最も進んだ設備を持ち、その中で世界各国の爬虫類(おもに蛇族)の飼育と繁殖が行なわれ、かなり進んだ新しい方法は他に類をみません。その特徴というのは、飼育下において、私たちがいちばん問題としている飼育ケースにあるのです。このケースは単純な合理性をもつものですが、衛生的でしかも蛇族の排泄物からの細菌を最小限にとどめるのが特徴で、当センターでも実験的に採用して、その結果は順調であります。

また先の(財)蛇族研究所では、人工的に大がかりな自然放置場を建設し、餌育下における捕食、交尾、脱皮、冬眠の状態などを、病理下においては、特に雨期に多く発生する細菌と腸内寄生虫の感染経路を重点的に研究しているのです。また、毒蛇に関しては、世界医学学会でも注目を集めています。

参考までにご紹介いたしますことは、毒蛇に咬まれた時には、タンニン酸液を注射すれば、応急手当として有効であることです。これらの問題点を総括的に把握して、私は餌育に当たっています。最後に、爬虫類の食物を記すとともに、機会があれば、爬虫類の分類等の寄稿を許されたいことと、この機会を与えて下さったことに深く感謝致します。

- ヘビ科(ネズミ・ヒヨコ・ドジョウ等)
- トカゲ科(ネズミ・ヒヨコ・腐肉、イグアナは草食性で果実、木の葉、花等)
- カメ科(果実、白菜、幼虫等)
- ワニ科、プロイラー(中型)モルモット、ネズミ、魚類等。

東海地区博物館協議会 岐阜大会に望む

日本モンキーセンター付属博物館学芸次長 広瀬 鎮

博物館の方々に、再びお会いする日が近づいている。まだしばらく先のことではあるが、大変に待たれることです。

昨年は、フランスで開催された博物館の世界組織ともいわれる ICOM (国際博物館会議) の第9回大会に参加して、特に強く感じたことがひとつありました。それは、この会議への参加者であった各国の博物館長や学芸員、その他の専門家の人たちが、三年に一回開かれるこの会議を大変待ちわびていて、いざ大会となると、博物館の、それこそあらゆる問題にわたって、徹に入り細にわたり、徹底的に議論をとりかわしているのです。もっとも、それもそのはずで、開催にいたる三ヶ年の間には、同じこの ICOM の中の会員が、それぞれの国際専門委員会にわかれて、博物館の役割りをめぐって、専門研究、調査をじっくり行っているのであるから、いわば三年目は、こうした活動の報告大会でもあるわけで、三年目が待たれるのも当然である。宿題をかかえ、それを完成したもの、未完成のもの、共に集り来りてその仕上げを論じ合い、再び実りのある三年先を期待するといったこの大会の姿を、わたしはうらやましく思っています。

さて、東海地区の博物館協議会のことですが、今回の事務局、会場をお引き受けいただく岐阜県博物館施設関係の諸先生方には、御多用中誠に申訳なく思いますが、どうか大会のための諸準備をどんどん進めてください。参加館をまずつってください。参加館ごとにひとつは、問題や協議事項の提出を呼びかけて下さい。また博物館の学芸員や技術員、その他職員等からの話題提供を願ってみて下さい。参加するしないは別としても、大会を成功させるのは、参加者側のすべてに責任があります。事務局の方々からのこうした働きかけは、多くの館園の期待を呼ぶことができるに違いありません。かねがねこの会合は、単なる年に一回の顔合わせの会合で、お付合いだけのものぐらゐの意義しか認められておらず、それはそれでよいとしても、さっぱり熱のあがりにくいものでした。

それは、問題意識を持った博物館の専門職員に参加してもらわない限り、期待する方が無理だったのです。規模の大小、館園の性格の差異、こうした違いはあっても、館長以下事務員も技術員も学芸員も、博物館の仕事を進める上での問題を全部出し合ってみたらどうでしょう。そこで、次の六つを大会に望みたいと思います。



- ①. この大会は「博物館」のビジョンについて充分話し合う場にしたい。それぞれの館園の目標と、社会に果そうとしている役割りをじっくりと話し合いたい。
- ②. 東海という地区にこだわらず、参加可能な博物館専門家、地方組織、例えば、滋賀県博物館協会などへも呼びかけ、オブザーバーをつくる。博物館協会の個人会員へも呼びかけていただきたい。
- ③. 各館園からの提出話題の中から、一番問題のあつまった点について、あらかじめ討論できるように参加者に知らせていただき、この問題解決の方策を中心に協議を願いたい。
- ④. 各館園の協力事業の開発、技術交換、職員研修についての具体的な支援方式を検討、日本博物館協会との協力関係等についても意見交換を行い、地方博物館活動を活発化するための共通の運動方針を定めたい。
- ⑤. 博物館界全体の問題として、自然を含めた文化財保護、環境保全のための、博物館の主張、地域住民への働きかけについて、大会の総意として関係当局へ働きかけたい。
- ⑥. 「岐阜県博物館」の実現を前にして各館園からの専門家が集まるのですから、その県立岐阜県博物館構想をめぐっての勉強会を行うなど実利的な話題も追いかけてたい。

短 信

大垣城郷土博物館 責任者 日比 武

◎本年4月以降の事業は、次のように計画されています。

- | | |
|------------|------------|
| 4月 酒器と生活展 | 10月 つば展 |
| 5月 大垣まつり展 | 11月 梁川星巖展 |
| 6月 郷土偉人書画展 | 12月 郷土秘蔵展 |
| 7月 日本全国拓本展 | 1月 大橋翠石展 |
| 8月 水都まつり展 | 2月 硯唐墨水注展 |
| 9月 木因展 | 3月 郷土民俗資料展 |

池村教育資料館 責任者 池村 兼武

◎本年度は、ぜひ県内の博物館および資料館の視察旅行を実現したい。その節はよろしく。

◎教育の現場を離れたのをきっかけに、何十年来集め自作してまいりました野鳥、動物等の教育資料を展示し、無料公開すべく資料館をつくりました。失なわれゆく自然の多い中で、現代の子どもたちに、少しでも自然のすばらしさに触れさせ、正しい自然観を身につけさせてやりたいからです。教育一筋に生きてまいりましたわたくしに残された、これが社会への奉仕と生きがいだと考えております。関市としては、建物に対して免税の処置をとってくれているのですが、最近地元の土地所有の神社庁の氏子役員から、年貢を上げてほしいとの要求があります。建設前には協力的で、はっきり捺印した契約書もいただいているのですが、手のひらを返したような冷たい態度になりました。何も年貢そのものは大したことや金額でもないのですが、こうした純粋な教育事業への理解の不足、冷たさが、何ともやりきれなく淋しく思います。

〔編集室より；子どもを愛し、自然とともに歩み続けてこられた熱血漢池村氏は、その生涯をかけてこられた教育という尊い仕事を辞されてからも、私財を投げ出して、地元の子どもの科学する心、芽を育てようとされているのです。それなのに、ここにも、まだまだ百年、二百年も遅れた、日本の博物館活動の悲しいまでの痛々しい現実が見られます。お互いに手を取り合い、横の連絡を密にしつつ、みんなの力でひとつひとつの障害を乗り越えるよう、協力し合って前進したいものです。ご支援下さい。〕

縄文大鐘乳洞 責任者 渡辺栄三郎

◎洞内からの出土品など、縄文鐘乳洞にかかわりのある資料等を展示する「史料館」を作りたいと考えています。皆様方のご教示、ご支援のほどお願い致します。

ひだ福地自然館 責任者 山腰 悟

◎遊歩道（古生代の地層展示場）が荒されますので、遊歩道に金網のようなもの、および雨天の場合にそなえての屋根、夜間見学のための照明装置の取付けなどを計画しております。

飛驒集古館 責任者 中西 政一

◎創設以来、日なお浅きため、本年は特に内容の充実を計画しております。皆様方のご教示、ご指導、ご協力のほどよろしくお願い致します。

どんな小さなご意見でもニュースでも、
どんどんお寄せ下さい。短信欄を充実させ、
横の結びつきを強くしていきましょう！

故 名和正男氏を悼む

本会副会長で名和昆虫博物館長名和正男氏は、昭和47年3月28日、全く突然におなくなりになりました。



故人は、あらためてご紹介を申し上げ

るまでもなく、昆虫学のみに限らず、映画撮影に関しては玄人以上で、全国各地の祭事の記録フィルム資料は膨大なもの。また民芸玩具、陶磁器の収集も大したもの、マレーシア・バリ島等への昆虫採集旅行を前にし、さらには、博物館友の会の結成準備も整ったばかりで、いざ発足というやさきの急逝だけに残念なことで、ご本人もさぞかし心残りのものがおありであったらうとお察し致します。故人に、あと十年余の寿命を与えて下さらなかつた神を恨みたい気持ちでいっぱいです。<小野木三郎学芸員>

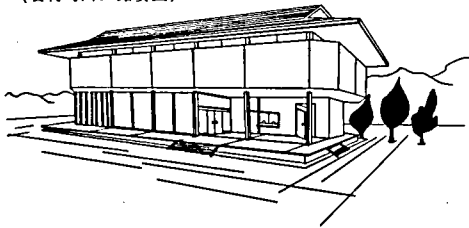
岩村町郷土館
7月にオープン

岩村城としてあまりにも有名な岩村町の、苔むした城跡の一角、旧藩主邸跡に、鉄筋コンクリート二階建、高床式・入り母屋づくりの屋根による「岩村町郷土館」が完成。目下乾燥中で開館は7月が予定されています。歴史の町ならではの熱意が爽り、文化庁から、岐阜県下では初めて補助金が交付され、建物自体は昨年11月に仕上がりました。展示予定品としては、極彩色の岩村城絵図（昭和、享保のもの、いずれも県指定重要文化財）岩村藩領地図、など、岩村城についての歴史資料を中心に、城下町、農村に因んだ民俗資料等の展示が予定されています。建設費3千万円、道路改良費その他に5百万円と、同町にとっては大英断でしたが、ふるさとの歴史を正しく学び、明日の岩村町を発展させるための原動力として、末永く町民の誇りとなることでしょう。公開の日が待たれます。

〒509-74 恵那郡岩村町岩村町役場内
岩村町教育委員会

TEL, 057343-3057

(岩村町郷土館姿図)



編集後記 ◎愛知県のJMC、広瀬氏からは、東海大会へのご意見、提言をお寄せいただきました。引続き神奈川、静岡からお寄せいただきます。これらの貴重なお意見を反映させ、秋の総会は、中味の濃い充実したものに盛り上げてまいりましょう。

◎海外旅行が盛んです。先日、本協会顧問である江口三五氏宅をお訪れた折、アメリカ再発見の旅（8月）を勧められました。江口氏

怪力・庄助の家 民俗館に

飛騨地方に伝わる怪力男・庄助 — ゆかりの伝説の家 — 大野郡久々野町の土川隆氏の家は、久々町へ寄付され、町では、適当な場所へ移築、屋根もクレブきにするなど昔の建て物に造り替え、町の民俗館として活用することになりました。館内には、怪力男・庄助の資料のほか、散らばりゆく郷土の民俗資料も集収、展示する計画が立てられています。開館未定。

昭和47年度会費納入館園一覧

- 小川栄一コレクション展示室、● 飛山民俗館、● 寺宝館、● 岐阜県陶磁器陳列館、● ひだ福地自然館、● くすり資料館。

★振替用紙をおとどけしましたので、未納の館園は、公立年額 1.500 円、私立年額 1.000 円、個人会員年額 300 円、至急送金ください。名古屋 28716

★すでに納入済みの館園で、上記に記載もれがありましたら、事務局までお申し出下さい。

東海博物館協議会総会計画案

9月9日、12時頃国鉄郡上八幡駅前集合 — マイクロバス使用 — 明方村寒水掛踊見学。夜、総会、山の家にて一泊。

9月10日、明方中学校内 明方博物館見学、その他、奥美濃郷土館、郡上染織資料館、奥美濃おもだか家民芸館、郡上八幡城、鐘乳洞等見学。参加費 1.000 円、宿泊費 2.000 円の予定。細部は7月に決定。今から参加計画よろしく!!

が会長をしておられる県ユネスコ協会の主催で、博物館施設、自然めぐりも含まれた格安の14日間旅行。人間は本質的に未知なものに憧れるもの、この未知への好奇心をゆさぶるところに、知的教養レジャーの本質がかくされているように思われます。どなたか、思いきって出かけてみませんか。

◎いよいよ春です。行楽のシーズン到来です。私もふらりと、出歩くことにします。

(Sab.)